

まだ十分に活用されていない状況です。最近二年間は主に生存率に関する検討（病院の種別・規模別の検討、生存率計測の精度に関する検討）を行いました。過去には、がん登録との記録照合により、肝疾患検診で発見されたC型肝炎ウイルス感染者の追跡、県が行った生活習慣調査集団の追跡などを行い、論文になった例があります。行政的に得られる有益なデータは多々ありますが、個人情報保護の流れの中で如何に有効に活用していくかが私の課題の一つです。人口88万人という小さな県で、住民の移動も少なく、何か良い仕事ができないか、と思いを巡らすこの頃です。

第11回総会研究会を終えて

岸本 拓治

鳥取大学医学部 社会医学講座 環境予防医学分野

地域がん登録全国協議会第11回総会研究会は、2002年9月13日に鳥取県米子市「米子コンベンションセンター」において開催され、12日の実務者研修会と併せて、予想以上に多くの参加者があり盛会のうちに終える事ができました。皆様方のご支援、ご援助に対し厚く御礼申し上げます。

本総会研究会では、「保健予防活動と地域がん登録」を主題として開催いたしました。ここ数年の間、個人情報保護の観点から、地域がん登録に関しては大変厳しい状況が続きましたが、現在継続討議になっております「個人情報保護法案」、あるいは「疫学研究における倫理指針」、「健康増進法」などにより、地域がん登録制度の重要性が認識されてきていると思われまます。しかし、法的裏づけや精度向上に関する事、還元方法・活用方法などにつきましてまだまだ多くの課題があり、そのような中で地域がん登録ががん予防に関して非常に重要かつ有効なものであることを改めて問い直し確認するということが、本主題を選んだ理由です。

教育講演では、「最近の大腸がん増加とその背景」という演題で富永祐民先生に講演を頂きました。先生ご自身の健康生活実践例も含めて、大腸がん増加の背景因子に関して報告していただきました。もう一つの教育講演として波平恵美子先生に「癌告知：死と医療の文化人類学」に関して講演していただき、この問題については専門職だけでなく、全ての患者と患者予備軍である一般の人々によって活発に論じられる必要性が強調されました。また、特別講演では「現場で役立つ禁煙指導」について中村正和先生に報告していただき、健診や外来診療の場で

の禁煙指導に関する行動科学的介入について解説していただきました。

シンポジウム「保健予防活動と地域がん登録」では、がんの1次予防に関して「がん登録データが示すがん1次予防の課題」（大島 明先生）、ハイリスク者に対する化学予防に関連した「HCV 検診とIFN 治療」（周防武昭先生）、また、2次予防に関して「わが国のがん検診の現状と問題点」（祖父江友孝先生）と「肺がん検診と治療への展望」（清水英治先生）について、そして、3次予防に関連して「がん登録と生存率—がん医療の進歩と生存率向上—」（津熊秀明先生）について発表されました。さらに、「地域がん登録はがん予防につながるか」（岡本直幸先生）という観点から報告されました。1次予防から3次予防にわたり総合的な討議が行われ、地域がん登録の成果と課題について明らかにされました。

実務者研修会を含めた今回の総会研究会が、今後の実りある地域がん登録の活動に役立つことを祈念して、総会研究会のご報告とさせていただきます。

第12回総会研究会のご案内

藤田 学

福井社会保険病院

地域がん登録全国協議会の第12回総会研究会ならびに実務者研修会を下記のとおり開催させていただきます。

日時) 平成15年9月12日 総会研究会

平成15年9月11日 実務者研修会

場所) 福井県国際交流会館 福井市宝永3-1-1

現在プログラムなど具体的なことはまだ決まっていませんが、内容といたしましては次のようなことを考えております。

- 1) 実務者研修会；各医療機関における病歴室や院内がん登録の整備と地域がん登録の関係
- 2) 総会研究会；地域がん登録の利用について
 - ① 臨床、疫学研究からみたがん登録の利用
 - ② 保健予防活動におけるがん登録の利用

福井県のがん登録の特色としては、臨床医が日常行っているがん医療の効果をみたいという目的のもとに始まったということです。最初は胃がんの罹患状況を把握したいとのことで1984年に県医師会の主導で悪性新生物実態調査が実施され、翌1985年から福井県がん登録事業に発展しました。したがって現在でも福井県のがん登録事業は県医師会を中心とした臨床医が中心となって運営されています。福井県のがん診療のレベルを上げるため